

「諏訪之瀬島学園の八月踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	十島村立諏訪之瀬島学園
2. 学年・人数	1～9年 22人
3. 日時・場所	○練習 令和6年7月18日 14:05～14:50 諏訪之瀬島学園 体育館 ○発表 令和6年8月13日・15日 20:00～ / 9月8日 20:00～
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称 八月踊り（はちがつおどり） (2) 由来 この諏訪之瀬島では奄美大北部の笠利町の伝統的な文化や生活習慣を受け継いでいる。その中で八月踊りは、奄美大島全域で伝染病が広がり、それに加えて天災や地震が起こり、その被害は目も当てられない程であったため、沖縄の王に相談したところ祭りにより祟りを解くということから八月踊りが始まったとされている。8月節句は、考祖祭といって、新穀を神前に供え、先祖を祭り、五穀豊穡を祈るのである。考祖祭は、新節（あらせつ）とシバサシとドンガに分け、これを三八月（みはちがつ）という。新節は親節で8月最初の丙（ひのえ）の日に行く。新米で作った「キミ」と「カシキ」を備えて火の神を祭り、豊年を祝う。丙の前日すなわち乙（きりと）の晩から部落隅々まで一軒も残すところなく夜を徹し2日3日踊り歩く。これをヤサガシという。現在では継続されていない。シバサシは新節から中7日おいて乙にツカリ丙に祭る。畑や屋敷の隅に柴（すすき）を立てて悪神を払う。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	諏訪之瀬島の伝統の灯を絶やさぬように、学校では毎年総合的な学習の時間において、島民の指導のもと児童生徒が八月踊りの練習に取り組んでいる。 全校で練習に取り組み、地域と学校の親睦の場にもなっている。覚えた踊りはお盆や地域の祭りなどで年に複数回島民一体で踊っている。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	 八月踊りの由来や振り付けの説明を受ける  山海留学生や新入生は初めての経験だがみんなで輪になり楽しく踊る 
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	・ 同じような動作が多いが、練習するにつれ次第に覚えてくる。 ・ 参加者が多いと祭りも明るくなりうれしい。 ・ 終わり間近に参加者が自由な振り付けで踊る節があり、個性的な踊りが見られて楽しい。 ・ 振り付けが分からなくても、踊りの輪に入り、見よう見まねで踊れるので参加しやすい。